

Messor structor

(Latreille, 1798)

体表がざらざらした茶色の種子収穫アリで、巣に多くの女王アリを抱え、新しいコロニーを分けて広がっていきます。



写真：Philipp Hoenle (myrmecophil), CC0 1.0

ひと目でわかる情報



巣の温度
22-28 °C
巣の中



巣の湿度
50-70 %
穀物庫：30-50 %



休眠
8-12 °C
11月 - 2月



結婚飛行
4月 - 6月



働きアリ
4-8 mm
大型働きアリは最大10 mm



女王
9-11 mm
女王は複数

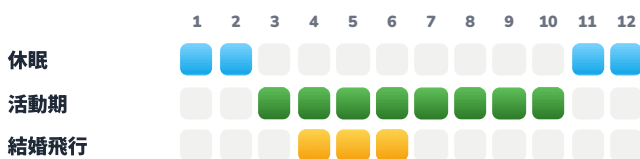


コロニーの規模
働きアリ5,000匹規模
成長速度：速い



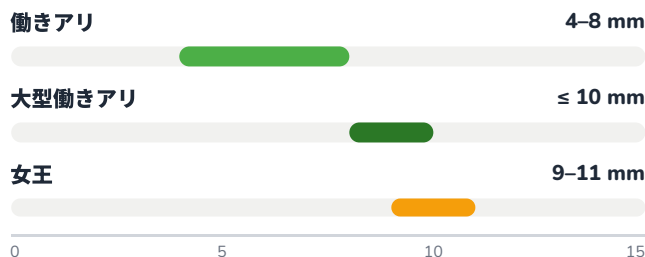
脱走リスク
低い
おとなしく、めったに脱走しません

1年をひと目で



月は温帯ヨーロッパと地中海地域の目安です。正確な日は天気で決まるため、お住まいの地域では飛行が早まったり遅れたりすることがあります。

同じ縮尺での大きさ



飼育の早見表

食べ物

種子

昆虫

砂糖

おすすめの巣

- Ytongの巣
- アクリル製の巣
- 自然再現型のセットアップ

この評価の理由

- ✓ おとなしく、めったに脱走しない働きアリ
- ✓ 完全閉鎖型：最初の働きアリが現れるまで、女王に餌は不要です
- ✓ 種子を貯めるので、餌やりを忘れても問題ありません
- ⚠ 乾いた穀物庫と湿ったブルード室のように、湿度の勾配が必要です

飼育者からのメモ

ヒント

働きアリ付きの女王アリから始めるか、女王アリを何匹か一緒にしましょう。フランスの飼育者によると、単独の女王アリは飼育下でコロニー創設に失敗することが多いそうです。この種は、おもに分巢で新しい巣を始めるようだからです。

注意

働きアリは、おもにスペースが足りなくなったときに、軽量気泡コンクリートや石膏を掘ります。Ytong製の巣にはモルタル、タイル用接着剤、樹脂系の石膏を塗るか、アクリル製の巣を使い、薄い壁は決して残さないでください。